

童

2024年3月19日。

三寒四温 冬と春の行きつ戻りつ といった今日この頃。2月、暖かい日が続く、このまま春が訪れるかと思いましたが、子供たちにとって、魅力的な冬は、うれしいことに簡単に別れを告げませんでした。

大地は、ドロドロの地面となり、子供たちのウェアや長靴は 水と泥で毎日ぐちゃぐちゃとなり、毎日の洗濯乾燥がさぞ大変だと思われます。野球やサッカーやラグビーの経験者やその親だったらわかりますが、毎日のユニフォームの洗濯は大変ですが、その時期が過ぎれば、懐かしい思い出に変わります。まさに、大地の親は、早くして、アスリートの親としての貴重な毎日を送っていると思います。

親の負担のないように、給食 長時間長期間 送迎、近年では 洗濯 服の貸出 などの手ぶら保育園等などが、人気のようですが、大地は真逆です。本当に楽しい事(楽しい子育て)は、決して楽なことではない(過日 必ず思い出として実感します 経験から言うと) 大地時代様々な体験を親子共々精一杯楽しんだ保護者達は、大地の幼児時代が、(小中高時代を含めて) 一番親として充実していて楽しかったとおっしゃって下さいます。

そんな親の心もまだ知らずに、連日 ドロドロになって遊んでいる子供たち。あれだけ雪遊びをしながらも、更に氷の田んぼに入って、わざわざ転んで泥だらけになったり、水路で遊んだり。まさに 親の心子知らず!？ です。

願うのは、子供たちは 日々 自分の人生 時間を生きてほしいのであり、決して 親や第3者の人生(評価 期待 名声・・)を生きてほしくないと思います。

7歳までは夢の中(現代では 9歳までは夢の中だと思います)それまでは ①身体脳の形成 ②運動休息のリズム(静と動) ③模倣 ④感覚器官の形成 ⑤自然の一員 ⑥メルヘンとファンタジー を忘れずに、そして、子供は小さな大人ではなく、大人とは違うファンタジックな宇宙人であることを、常に念頭に入れて、春の次のステージに向かってほしいと願います。大地は 常に 子供サイドに立ち続けますが、それは 決して 子供の言うなりになったり、媚びたり、秩序のない意思を受け入れたりするのではなく 未来の幸せに繋がるために今なすべきことを、大人が 先の6つを理解した上で、ファンタジックなメルヘンの心を持って、自分が子供だったら こんな大人に囲まれていたいという大地が、子供サイドに立つ ということです。

そんな思いを込めて、春の新しいステージにエールを送りたいと思います。



【小人とくつや・山の上の火】

大人目線で見る聞く(幼児や子供は違います)人形劇「小人とくつや」やお話「山の上の火」。まさに自分の人生に大きな衝撃を与えているものです。

およそ、かれこれ20年前位の出来事です。大地はまだ創成期で、青ちゃんも若く、送迎 保育 環境整備 事務等を全てこなし、特に野外の森や林の整備 草刈りは、一人でやっていました。大地の周辺の森の第一次間伐で、膨大な枝や薪があちこちに広がり、これを集め チップ薪などの処理を、連日朝晩やっていました。その当時から、早朝4時ぐらいから仕事をしていました。ところが、たぶん 土日どこかへ行っていたのか、今になったら記憶が飛んでいます。朝起きてみたら、枝や薪がきれいに整理片づけられていたのです。それも、半端な量ではなく、見事に片付いていたのです。深夜なのか早朝なのか・・・・ まさに 小人とくつや です。

これは、只事 只者ではないと思いました。その後 およそ 誰だか察しがつきましたが、それ以来、尊敬すべきメンター(師)に変わりました。一挙手一投足を見て学び、話し、子育てを観察し、共に 海へ川へそして高所登山を面白おかしく真剣に楽しみ、人生を学びました。

更に、青山家の4人の子ども達の節目節目にも、さりげなく蔭から見守ってくれ(現在もそうですが)ています。末っ子の高校野球最後の大会も、目立たずに親子でスタンドに来ており、その姿を見つけたので、息子に、何が何でも打ってくれと願いました。鳥肌が立ちました!! 見事に 答えてくれました。このあたりからは、お話「山の上の火」です。常に、近く遠くから 心を寄せて見守ってくれている人がいる、エールを送ってくれる人がいる。精神的支援 思いを寄せる事の尊さ 重さ、がどれだけ人を励まし、強くしてくれることでしょう。その精神の体現が 人の行動となっていくのでしょうか。本当に、この家族から痛感し、学びました。

その家族の子ども(大地 OG)は、高校生まで、文庫に通い、ノントン母さんのお話を聞きました。卒業や進学の時節には、大地に来て ノントン母さんと一対一で、お話を聞いていました。それが、彼女の希望でもあり、至福の時だったようです。彼女の成長を見ながら、子育ての神髄 親の愛情 人間の人生を学んでいます。成功者と言われている講演を聞いたりベストセラーの本を読むより、生き続ける人生を常に垣間見れ、学ぶことのできることは、数十倍 貴重です。

さりげなく静かに見守る、心を寄せる そして、静かなる底知れぬパワーでぐっと支え力になってくれる。それを、自分の喜びとして、逆に 感謝してくれる。趣味も特技も料理も、何もかも全身全霊を込め、世間から見たら超一流。しかも、遊びもおふざけもコントもあり得ない場所であり得ないことを青ちゃんとするのも、青ちゃんの上に行く超一流・・・・

人は 常に身体的物質的に寄り添うことはできないけれど、精神的に寄り添うことは常に可能です。それは、祈りです。人は 忘れていかれることが一番寂しいことです。子育てや教育 更には、別れや死に関しては。逆に言えば心を寄せてもらっていること、祈りを捧げてもらっている事は、一番うれしく心強いことです。

常にできなくても、思いついたときに祈りを捧げ、更に できたらそれを小さくても良いから、さりげなく体現行動をしよう。時には、お節介になりそうになっても、いざというときには、そして、目立たなくても、陰ながら応援できる時には、祈りを捧げよう、小さな声でもかけよう、そして、微力でも、自分なりに行動しよう。

「ありがとう」「あなたとの出会いに感謝している」「応援しているね」「愛している」「見守っているね」・・・・などの思いを、常に 祈り続けたいと思います。

大地は 靴屋ではなく赤ちゃんから年配者まで過ごせる公園のようなもの、そんな皆のための公園を更に豊かに作り続け、そんな大地から、微力ながら途切れることなく、温かい火を送り続けていきたいと思っています。

大地とくつや そして 大地の丘の上の火 いつか こんな人形劇とおはなしができれば・・・・

